

いのち支え合い 誰もが自死に追い込まれることのない智頭町を目指して

「智頭町自死対策計画」を策定しました

睡眠キャンペーン
キャラクター「スーミン」



自死^{※1}の要因は、精神保健上の問題だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立など、様々な要因が複雑に絡み合っており、追い詰められた末の死が自死と言われています。

自死は「個人の問題」ではなく「社会の問題」です。自死予防は、「生きることをいろいろな視点から総合的に支援すること（生きることの包括的な支援）」と言えます。

本町でも、残念ながら自死で亡くなる方が発生することがあります。保健・医療分野だけでなく、福祉・教育・労働分野等と連携し、「生きることの包括的な支援」を実施できるよう、本町では「智頭町自死対策計画」を策定しました。

※1 鳥取県では、法令等の用語を引用する際に「自殺」という表現を使用する場合を除き、「自死」と表現しています。

計画の基本理念

地域の人が互いにつながりを持ち、共に支え合いながら、町民一人ひとりが生きがいや夢をもって生活することを通じて、「誰もが自死に追い込まれることのない智頭町」を実現します。



計画の数値目標

- ①令和8年の自死者数0人を目指します。
- ②自死予防に重要な役割を果たす「ゲートキーパー^{※2}」の言葉も意味も知っている人の割合を増やします。(令和3年度 5.7% → 令和8年度 10%)

※2 自死の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る)を図ることができる人のことを指します。

具体的な取組

地域におけるネットワークの強化

役場関係各課、町内の関係機関・関係団体等との連携を強化します。

また、自死を考える人にとって一番身近な家族や地域社会のつながりを、「おせっかいのまちづくり」で強化します。

町民への啓発と周知

自死のリスクのある人の心情や背景について理解できる機会をもてるよう、普及啓発や健康教育、個別相談を行います。

児童のSOSの出し方に関する教育

児童生徒に対し、様々な困難・ストレスへの対処方法を身につけるための教育を実施します。

生きることの促進要因への支援

生活苦、心身の健康状態の悪化、育児や介護疲れ等は、生きることの阻害要因になります。

自己肯定感を高めること、信頼できる人間関係を築くこと等、生きることの促進要因を高めることができるように本町では様々な事業を行っています。

自死対策を支える人材の育成

ゲートキーパーの養成を進めます。

悩みや心配事がある人は、まずは下記までお電話ください。

相談・問合せ先

保健センター福祉課

☎75-4101